

# 日本を代表する林泉廻遊式大名庭園 兼六園(特別名勝) [歴史公園]

[歷史公園]

## 公園の概要

- 所 在 地 金沢市兼六町
- 開 設 面 積 11.4ha
- 利 用 案 内 3/1～10/15 7:00～18:00  
10/16～2/末日 8:00～17:00  
(時 雨 亭) 9:00～16:30
- 問い合わせ先 金沢城・兼六園管理事務所  
TEL.(076)234-3800

主な施設

時雨亭(休憩施設)、梅林

交 通

JR金沢駅兼六園口(東口)より「城下まち金沢周遊バス」に乗り、「兼六園下・金沢城」下車徒歩3分

園名の由来

文政5年(1822)十二代当主斎広公は、千歳台に築造された竹沢御殿の庭の名称を「兼六園」と定め、奥州白河藩主松平定信(白河楽翁)に庭園名の揮毫を依頼しました。

園名の由来は中国宋の時代の詩人、李格非の書いた洛陽名園記の文中から本来兼ねることのむずかしい宏大、幽水、人力、蒼古、水泉、眺望の六勝を兼備するという意味で「兼六園」と命名したといわれています。



▲瓢池と紅葉



▲曲水と桜



兼六園は、江戸時代の代表的な林泉廻遊式大名庭園の特徴をそのまま今日まで残しています。もともと本園は、金沢城の外郭として城に属した外庭でした。延宝4年(1676)加賀前田家五代当主前田綱紀が蓮池御亭を作り、その庭を蓮池庭と呼んだのが本園の始まりと伝えられています。その後十二代当主斎広が東南平坦地千歳台に竹沢御殿を造営し、その間、新たに庭を作り、蓮池、辰巳、山崎等35門を建てました。十三代当主斉泰は、天保8年(1837)霞ヶ池を掘り広げて作庭し蓮池庭との障壁を除き、今に見る兼六園の形をほぼ整えたもので、その築庭の雄大さと技術の優秀さは、他の追随を許さぬものです。

廢藩後、前田家より離れ、太政官布告により、明治7年(1874)、公園として開放されました。大正11年(1922)史蹟名勝天然記念物保存法により名勝金沢公園に指定され、同13年(1924)には、名勝兼六園に復しました。昭和25年(1950)文化財保護法により名勝として改めて指定され、昭和60年3月(1985)には特別名勝に指定されました。

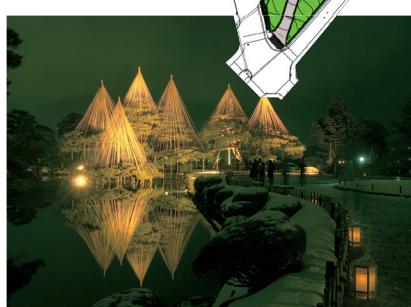
昭和51年9月には全園11haのうち約9haを有料化し、文化財庭園として保護管理に努めています。

平成12年3月、長谷池周辺では、六代当主吉徳が造ったとされる時雨亭の一部復元と藩政時代の四阿(あすまや)舟之御亭の復元や庭の整備を行いました。

園内には辰巳用水を水源とする曲水や池が配され、花々や紅葉、雪吊りなど四季折々の美しい風景を楽しめる庭園として、多くの県民や観光客に親しまれています。



▲霞ヶ池と徽軫灯籠



#### ▲唐崎松 雪吊り・ライトアップ



▲時雨亭